

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

- ① 心地良く安全な排泄介助ができる
- ② 心から「気持ちよかった」と感じられる入浴の提供
- ③ 楽しい食事時間を過ごす中で適切な食事介助を行う
- ④ 変化にとんだ楽しく潤いのある生活ができる
- ⑤ 誰もが悔いの残らないターミナルケアを行う

※20周年を迎える令和2年度は、基本に立ち返り、三大介護を見直し、職員全員統一した介護ができるようにすることを大きな柱とする
（年間目標①②③）

【実践報告】

- ① 心地良く安全な排泄介助ができる
 - ・利用者が不快な思いにならないように個々に応じたオムツ・パット交換を行なえるよう情報交換をしてきたが、利用者にあった適切な対応ができるようになるにはもう少し職員の介護力をあげていく必要がある。陰部洗浄については職員が排泄チェック表で確認できるように工夫をおこなった
 - ・利用者の排尿のサイクルや量、排便リズムは概ね把握できており、利用者に合わせて排泄介助を行なっているものの、頻回な訴えのある方についての声掛けの仕方について工夫が必要である
- ② 心から「気持ちよかった」と感じられる入浴の提供
 - ・利用者の状態に合わせて日々の入浴（個浴・一般浴・チェアイン浴・ミスト浴）をおこなっている。9月にはチェアイン浴が2台になり、入浴に関わる人員増員した体制として常に看護師が着脱場にいることで、全身状態の観察、変化に対する速やかな対応ができより安全な入浴ができている
 - ・着脱場は従来設置されていた棚を撤去し拡大されたことにより、重度者の介護がスムーズにできる広さが確保できた
 - ・備品に関しては危険な物品が置かれていたことがあり、危険認識を徹底するために全員を対象とし教育をおこなった
 - ・季節を感じられる入浴時間を作る為に、毎月「変わり湯」に取り組んだ。また着脱時に排泄臭等で不快にならないように、季節に応じたアロマ香りを楽しんで頂くことが新しく取り組めた

③ 楽しい食事時間を過ごす中で適切な食事介助を行う

- ・利用者に対して安全で適切な食事形態で常に提供できるように、日々の食事量、水分量を確認し、日々の摂取状況を把握することができた。利用者の状態により、適切な食事内容に変更をおこなっている
- ・食事を食べて頂きたい思いから、摂取量が適量を超えないように、利用者の必要摂取量を常に把握できるように職員間で共有できた。ただし時によってはやや急いで介助してしまう場面も見受けられたので、注意していく
- ・口腔ケアをおこなうにあたり、歯科衛生士さんと相談し、口腔ケア物品が常に清潔に保てるような工夫をおこなった

④ 変化にとんだ楽しく潤いのある生活ができる

- ・コロナ渦において計画した外出レクリエーションや外出レクリエーション、また出演ボランティアや継続的なボランティア活動を実施することができなかった
- ・桜の花はベランダに咲いている小さな木を鑑賞して頂くだけになってしまった為、紫陽花や向日葵等、一時的に落ち着いた際に、近隣にドライブとして外出をおこなった
- ・施設内でおこなうレクリエーション（個別・集団）はバリエーションを増やしたり、クッキングやお習字等定期的に開催できるようになっており、長期的に継続していけるように新年度も考えていく
- ・利用者の夢を叶えたり、利用者のご家族が気軽に過ごせるコーナーの設置、またご家族と一緒に楽しめるイベントの企画はできなかったが、オンライン面会を通じてお誕生日会等、画面越しではあるが、同じ時間に共有できるよう企画できたこともあった。お誕生日会は昨年6月より実施しているが、好きなメニューでのお祝いはできなかった為、今後、ご家族に確認していく方向で検討している

⑤ 誰もが悔いの残らないターミナルケアを行う

- ・年間10名の方の看取り介護を提供した。入居時にご自身の意思を伝えられた方はいなかった為、ご家族に確認しながらおこなった。ご家族との歴史が回想できるよう相談し空間づくりをし、音楽を居室で流したり、アロマを設置しほっとできるような香りの中で過ごして頂くことはできた
- ・最後の食事として、食べたいメニューの提供はできなかったが、食事摂取量が少なくなった際に、好んで摂取して頂けるものをご家族に確認しながら探し提供をおこなった
- ・入浴はできる限り最後の日まで、ご家族に了承を頂きおこなっている
- ・ご家族と相談しながら、最後までその人らしい人生を全うできるように支援しており、最期に「ふるさとで最期を迎えられて良かった」という言葉を発して頂けるように引き続き支援おこなっていく

【総括】

コロナ対策によりショートステイの動きを止めており、目標としていた稼働が達成できなかった。年間ロング・ショート合わせて99.5%としていたが、99.3%となったコロナ渦も2年目となり、昨年度の反省を踏まえ、目標稼働が保てるように工夫していく。またレクリエーション等、できることを増やしていく

【神戸市事故報告】 1件

(令和2年5月14日(木) 13時30分頃発生)

他利用者の離床介助中にセンサーが鳴る。介助終了後訪室するが、すでにベッド近くの床で仰向けになって倒れていた。整形外科受診したところ、左大腿部幹部骨折との診断、手術適応とのことで5月19日に手術となった

(改善内容)

他の利用者対応中、手が離せなかった事実はあるが、センサーが鳴ってから現場に到着する為にどの程度時間を要したか検討する必要がある。時間を知ることにより、立ち上がる前に現場に到着することが可能である

退院後は状態が変化する可能性が高いが、ベッド臥床時から立ち上がるまでの動作確認、要した時間を知ること、立ち上がりによる転倒を防いでいく

【苦情受付】 0件